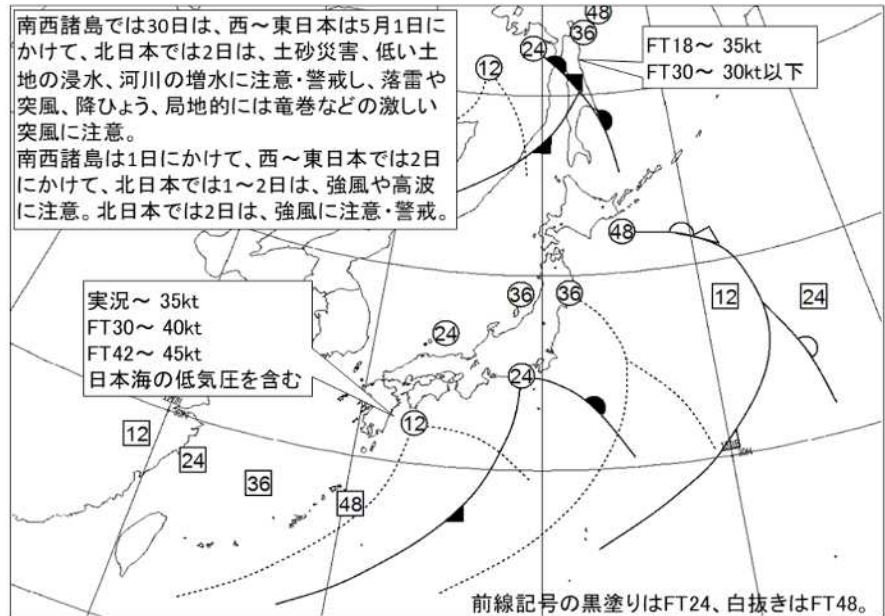


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5640m付近で-21℃以下の寒気を伴う寒冷渦が華北付近をゆっくり東進。その南側の500hPa 5760m付近のトラフ対応の低気圧が、九州の南を東北東進し、温暖前線は日本の南、寒冷前線は南西諸島に沿ってのびている。寒冷前線近傍の南西諸島では発雷し、非常に激しい雨を解析、メソサイクロンも検出。
- ② ①のトラフの前面の西～東日本では雲が広がっており、西日本太平洋側を中心に広く雨が降っているが、1時間雨量で10mm以下。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、30日夜には四国の南に進み、5月1日は寒冷渦の前面で発達しながら西～東日本太平洋側の沿岸付近を通して三陸沖に進み、2日は日本の東を北東進して千島近海に進む。また、1日は寒冷渦に対応して別の低気圧が日本海に発生して東北東進し、2日朝までには、発達する太平洋側の低気圧にとりこまれる。これらの低気圧や前線に向かう850hPa θ_{e330K} 前後の下層暖湿気や上空寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島では30日は、西～東日本では1日にかけて、北日本では2日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 2項①の2つの低気圧や前線の影響で、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。南西諸島は1日にかけて、西～東日本では2日にかけて、北日本では1～2日は、強風や高波に注意。特に、北日本では2日は、強風に注意・警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：東海180、関東甲信150、近畿・四国120mm。
② 波浪(明日まで)：関東・伊豆諸島5、東北・東海・近畿4、北海道・北陸・中国・四国3m。
③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を17時頃発表予定。